

てーま
テーマ5

はたら かつどう
働く・活動する・
よか たの
余暇を楽しむ

しょうがい はたら
障害のあるなしにかかわらず、「働く」ということ
じりつ せいかつ い
は、自立した生活につながることや、生きがいを
たか たいへんじゅうよう はたら
高めるなど、大変重要なことです。また、「働く」と
きぎょうとう はたら
は企業等で働くことはもちろんのこと、通っている
じぎょうしょうとう さぎょう おこな ふく
事業所等で作業を行うことも含まれます。

なに はたら す
どこで何をして働くか、どこでどのように過ごす

ひと ちが ひと あ しえん ひつよう
かは人それぞれ違うため、その人に合った支援が必要です。

じゅうじつ せいかつ おく がいしゅつ かか いどうしえん よか しえんとう か
さらに、充実した生活を送るためには外出に関わる移動支援や余暇支援等も欠かせません。

ひとり てきせい きぼう あ しごと み がいしゅつ しゅみ
そこで、一人ひとりの適性や希望に合った仕事を見つけることができ、また、外出や趣味・
す ぽーつ たの さまざま よか じゅうじつ よこはま めざ
スポーツを楽しむなど、様々な余暇が充実したまち、ヨコハマを目指します。

きぎょうとう はたら ひと はたら はたら つづ しえん ちいき じぎょうしょ
そのために、企業等で働きたい人が「働く」・「働き続ける」ための支援や、地域の事業所
とう さぎょう じゅうじつ しゅういゆう こうちん こうじょう しく すす
等での作業を充実させて収入（工賃）を向上させる仕組みづくりを進めます。

しょうがいふくし さーびす りよう ひと す な ちいき ひとり ちから あ はたら
また、障害福祉サービスを利用する人が、住み慣れた地域で一人ひとりの力に合った働きの
ばしょ かつどうばしょ せんたく しく いどうしえん よか かつどう じゅうじつ すす
場所や活動場所を選択できる仕組みづくりをはじめ、移動支援や余暇活動の充実を進めます。

とうじしゃ こえ
当事者からの声

- しょうがいしゃ さぎょう ふ
障害者でもできる作業をもっと増やしてほしい。
- いっぱんきぎょう はたら ちんぎん やす はたら
一般企業に働けるなら、賃金が安くなっても働きたい。
- ねんだい み あ かつどう ばしょ ほ こうれいか ひと かつどう ば
年代に見合った活動の場所が欲しい。高齢化した人が活動できる場。
- あくせさりー か で
アクセサリーを買い、おしゃれをして出かけたたい。
- しえんしゃ かえ おそ い しょうがいしゃ こ あつか す
支援者は「帰りが遅い」などと言って、障害者のことを子ども扱いし過ぎている。
さけくさ かえ
お酒臭くなって帰ってくるようなこともしたい。

図1 就労支援センターの実績【健康福祉局資料より】

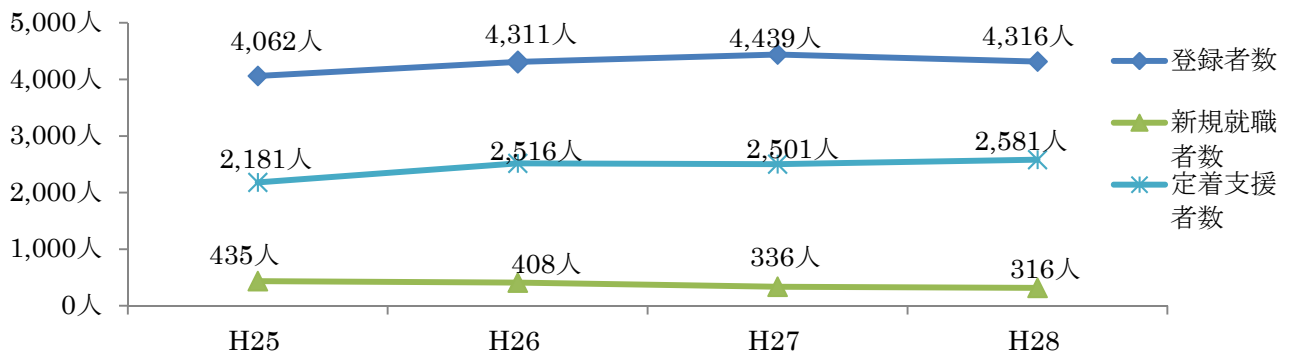


図2 障害者雇用の現状 (市内企業)【神奈川県労働局資料より】

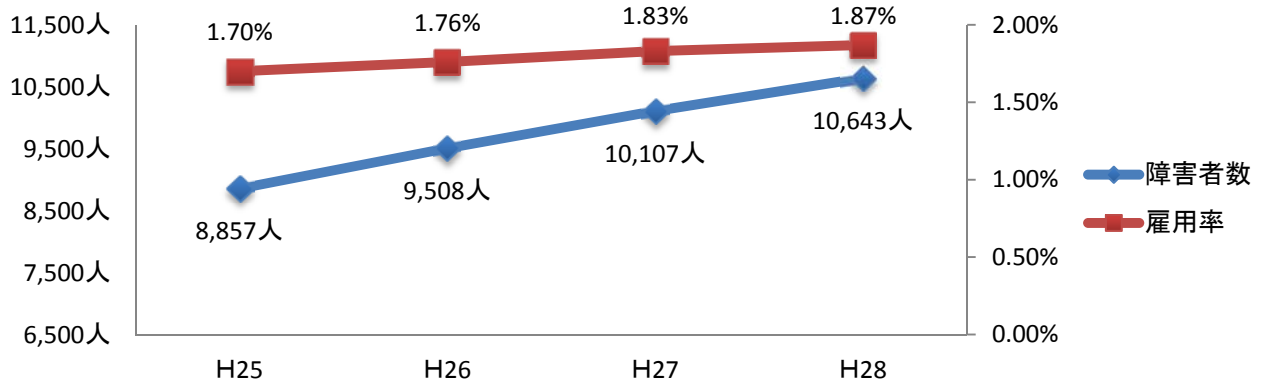


図3 特別支援学校の卒業生【進路対策研究会資料より】

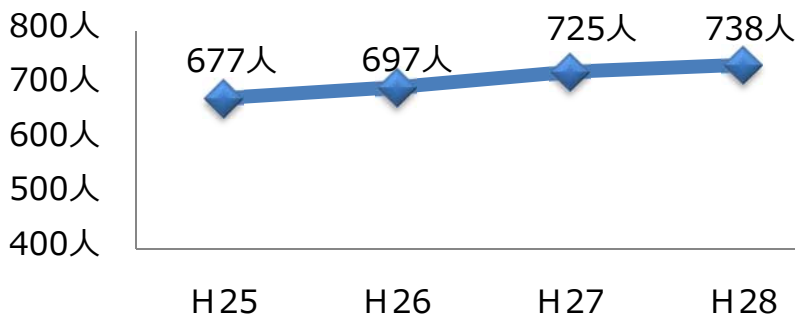
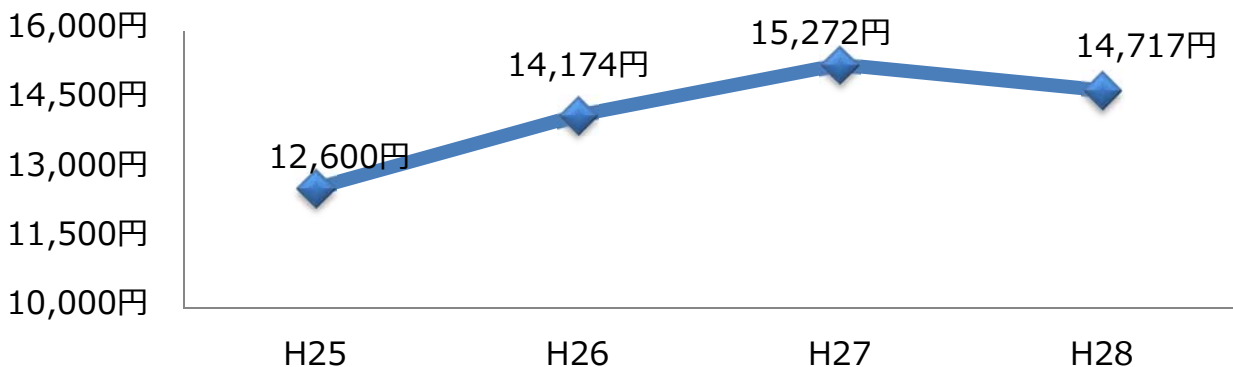


図4 障害者施設の平均月額工賃【神奈川県資料及び健康福祉局資料より】



とりくみ しゅうろう
取組5-1 就労

げんじょう とりくみ ほうこうせい
現状と取組の方向性

平成25年4月には、「障害者雇用促進法」で企業等に義務付けている法定雇用率が引き上げられるなど、障害者の就労を取り巻く環境は変化しています。今後も27年4月の「雇用納付金制度」の対象企業拡大や、30年4月の「精神障害者雇用義務化」など、法改正等を背景に、障害者が働くことへの社会的関心は、ますます高まることが想定されます。

また、「企業就労」を目指す特別支援学校の卒業生や精神障害のある方は、年々増加傾向にあり、就労支援ニーズがより一層高まると同時に、就労後に安心して、働き続けられるための支援が重要です。個々の障害特性に合わせたきめ細かな支援とともに、精神障害や発達障害などの分かりにくい障害については、企業等の障害理解を進めることが必要です。

そこで、就労支援センター等を中心に、就労支援の促進と定着支援に取り組めます。

また、安定した就労を支えるための生活支援など、各地域の関係機関との連携を強化します。その他、多様化する就労支援ニーズに対応できるよう、支援者のスキルアップ・人材育成や企業等に対する障害者雇用促進のための啓発を進めます。

し さく
施 策

いっばんしゅうろう そくしん ていちゃくしえん じゅうじつ
一般就労の促進と定着支援の充実

しゅうろうしえん せん た -とう ちゅうしん しゅうろうしえんたいせい じゅうじつ きょうか
▶ 就労支援センター等を中心とした、就労支援体制の充実・強化

…多様化する就労支援ニーズや生活面での支援も含めた定着支援に対して、就労支援センターの強化をはじめ、就労移行支援事業所等、障害福祉サービス事業所や特別支援学校等の関係機関と連携を図りながら、働く障害者への支援の充実を図ります。

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
就労支援センター (9か所)	<p>働くことを希望する障害のある方やすでに働いている方が安心して働き続けるための支援を、企業や関係機関と連携して行います。</p> <p><振り返り> 関係機関と連携しながら、障害者の企業等への就労・定着支援を推進するほか、平成27年度から就労支援センターのあり方について、方向性を定めて具体的な取組の検討を行っています。また、平成28年度から全センター共通の支援員向け研修を実施しています。</p> <p>(平成28年度の支援対象者数(登録者数) : 4,316人)</p>	支援対象者数 (9か所計) 3,400人	平成29年度 支援対象者数 (9か所計) 4,300人 (見込み)	○	支援対象者数 (9か所計) 4,400人	

▶ 支援者のスキルの向上

…精神障害や発達障害のある方からの相談が増えていることや、視覚障害、聴覚障害など、様々な障害特性に対する支援の専門性が求められていることから、支援者の就労支援スキルの向上を図ります。

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
就労支援機関の 人材育成 さいけい 再掲	就労支援機関職員の支援スキルを向上させるため、人材育成の仕組みづくりを検討します。 <振り返り> 就労支援センターのあり方検討の中で、人材育成に関する次の内容に取り組むことを決めました。 ・基礎知識・スキルの整理と学習の機会 の検討 ・障害種別研修や他機関と連携した研修の実施 ・本市開催の相談支援研修への参加	検討を踏まえた研修等の実施	実施	○	推進	

▶ 企業等への障害者雇用の理解促進

…企業における障害者雇用の促進し、働き続けられる環境づくりを広めるため、障害者雇用に係る制度や支援機関の周知・啓発を進めます。また、障害者雇用率の対象とはならない市内の中小企業に対する雇用啓発についても検討します。

(※ 45.5人以上の企業の法定雇用率：2.2 % (平成30年4月時点))

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
働きたい！わたしのシンポジウム	働く障害者や、雇用を進める企業などの「生の声」を聴くことで、障害者雇用の理解促進や啓発を進めます。 (平成29年度に「働きたい！あなたのシンポジウム」から名称変更) <振り返り> 「働きたい！わたしのシンポジウム」を開催(年1回)し、当事者・御家族等に対して就労啓発を行いました。 (平成29年度参加者数累計：824人)	参加者数 (累計) 600人	平成29年度 参加者数 (累計) 1,352人 (見込み)	○	参加者数 (累計) 3,000人	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
きぎょう ふくし 企業と福祉をつなぐ セミナー	しょうがいしゃこよう けんとう きぎょうとう たいしょう 障害者雇用を検討する企業等を対象 に、福祉の支援機関等をつなぐことや雇用 に関する制度の情報提供を行います。 <振り返り> かながわけん たとし ごうどう きぎょうむ せみ 神奈川県や他都市と合同で企業向けセミ ナーを実施しました。	さんかきぎょうすう 参加企業数 るいけい (累計) 120社	へいせい ねんど 平成29年度 さんかきぎょうすう 参加企業数 るいけい (累計) 227社	○	さんかきぎょうすう 参加企業数 るいけい (累計) 240社	
しょうがいしゃこようじれい 障害者雇用事例の しょうかい 紹介	しょうがいしゃこよう すく とりくみ おこな きぎょうとう 障害者雇用で優れた取組を行う企業等 をデータベースにして市のWEBページ等で 広く紹介します。 <振り返り> きぎょう だんたいとう ひありんぐ おこな 企業や団体等へのヒアリングを行い、 じゅんじろえぶページ けいさい おこな 順次WEBページへの掲載を行いました。 また、神奈川県や国の機関との情報共 有を行いました。 しょうかいきぎょうすう るいけい しゃ へいせい ねん 紹介企業数(累計) : 76社(平成28年 度末)	しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 るいけい (累計) 90社	へいせい ねんど 平成29年度 しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 るいけい (累計) 90社 みこ (見込み)	○	しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 るいけい (累計) 150社	
ちゅうしょうきぎょう 中小企業への しょうがいしゃこようしえん 障害者雇用支援	しないきぎょう たいはん し ちゅうしょうきぎょう 市内企業の大半を占める中、小企業に たい こようけいはつ む けんとう 対する雇用啓発に向けて検討します。 <振り返り> けいざいだんたいとう たい だまえこうざ じっし 経済団体等に対し、出前講座を実施しま した。 へいせい ねん どんりけい だんたい しゃ 平成27~28年度累計 : 6団体93社	けんとう ふ 検討を踏まえ じぎょう じつ た事業の実 し 施	へいせい 平成27~29 ねんど 年度 るいけい 累計 : 8団体 120社 みこ (見込み)	○	すいしん 推進	

ふくしてきしゅうろう いっぱんしゅうろう いこう 福祉的就労から一般就労への移行

しょうがいふくし さーびす じぎょうじょうとう れんけいきょうか ▶ 障害福祉サービス事業所等との連携強化

しゅうろういこう しえんじぎょうしよ しゅうろうけいぞくしえんじぎょうしよ とくべつしえんがっこう くやくじょうとう
…就労移行支援事業所や就労継続支援事業所をはじめ、特別支援学校や区役所等の
かんけいきかん やくわり ほつき れんけい きょうか ふくしてきしゅうろう いっぱんしゅう
関係機関がそれぞれの役割を発揮し、連携を強化することで、福祉的就労から一般就
ろう 労へとつなげる仕組みを構築します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ちいき 地域における就労 支援ネットワークの 構築	かんけいきかんとし れんけい きょうりょくたいせい こうちく 関係機関士の連携・協力体制を構築 することで、企業就労の促進、就労後の 定着支援及び生活支援の充実を図りま す。 <振り返り> 就労支援センターを中心として、特別支 援学校や就労移行支援事業所等、各関 係機関と連携を進めました。	かんけいきかん 関係機 関との連携 ガイドライン の策定等		じっし 実施	○	すいしん 推進

●就労移行支援事業 (※)

一般就労等への移行に向けて、事業所内や企業における作業や実習、適正にあった職場探し、就労後の職場定着のための支援等を行います。

●就労継続支援事業 (A型) (※)

通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供するとともに、一般就労に向けた支援を一定期間行います。

●就労継続支援事業 (B型) (※)

通所により、就労や生産活動の機会を提供するとともに、一般就労に向けた支援を行います。

●就労定着支援事業

就労系障害福祉サービス等を利用した後に、一般就労した障害者に対し、企業や関係機関等との連絡調整や本人への指導・助言を通じて就労継続に向けた支援を行います。

※就労移行支援、就労継続支援等の具体的な目標 (サービス見込量等) については、
「取組5-3 日中活動 (146ページ)」に掲載しています。(障害福祉計画対象事業)

福 もくひょう
【目標】

平成24年度実績 の福祉施設から 一般就労への移 行者数	155人	平成29年度見込 の福祉施設から 一般就労への移 行者数	360人 【平成28年度】 実績 457人	平成32年度見込 の福祉施設から 一般就労への移 行者数	781人
平成25年度末時 点での就労移行 支援事業の利用 者数	556人	平成29年度末時 点での就労移行 支援事業の利用 者数	898人 【平成28年度】 実績 950人	平成32年度末時 点での就労移行 支援事業の利用 者数	1,949人
平成25年度実績 の就労移行支援 事業の利用者の うち就労移行率 が3割以上の事 業所の割合	36%	平成29年度見込 の就労移行支援 事業の利用者の うち就労移行率 が3割以上の事 業所の割合	41% 【平成28年度】 実績 26%	平成32年度見込 の就労移行支援 事業の利用者の うち就労移行率 が3割以上の事 業所の割合	41%

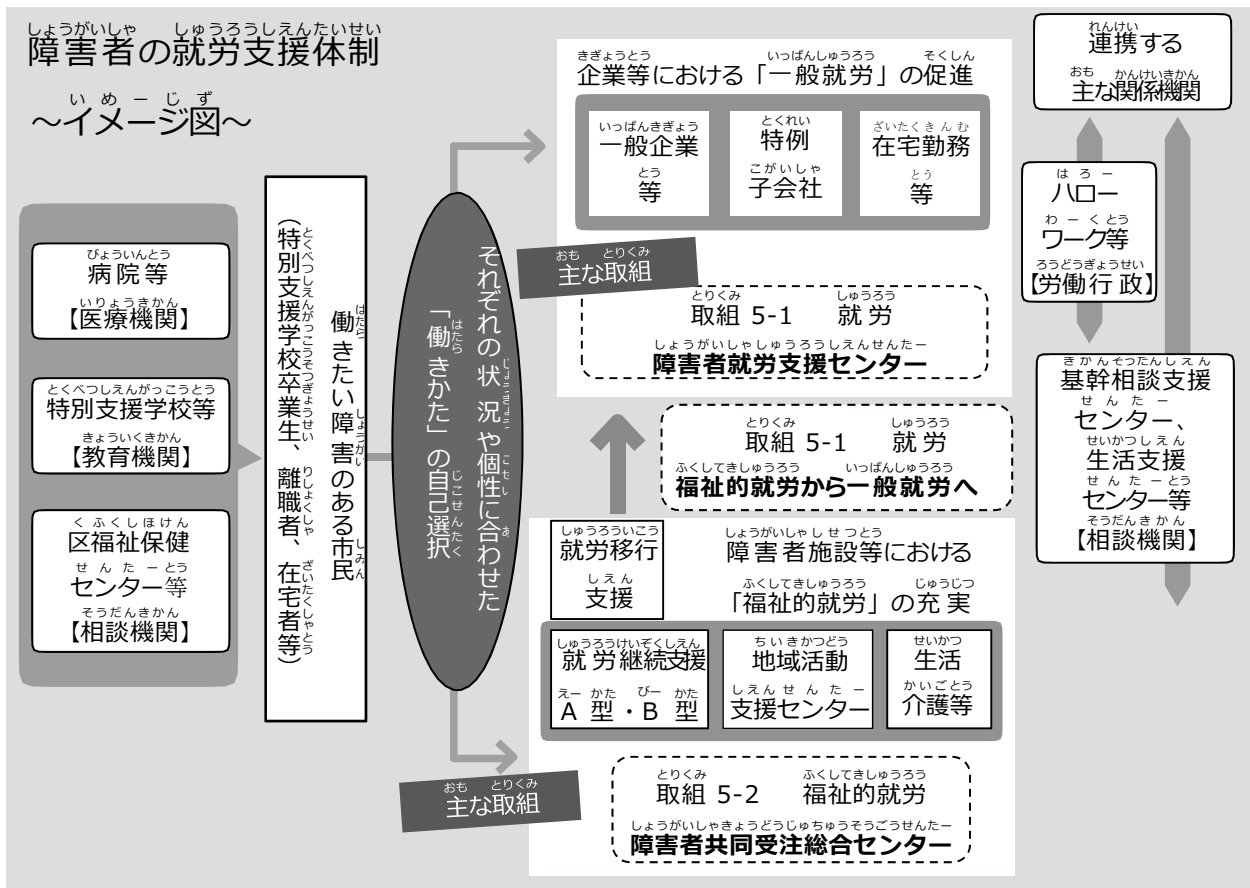
福

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
就労定着支 援利用者数 新規	—	—	—	625人	1,203人	1,343人

障害福祉サービス事業所等職員の人材育成

…事業所等の職員が就労支援の視点を意識し、必要な技術・知識を習得できるように、研修を実施します。

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
障害福祉サービス事業所等職員向けの研修 さいけい再掲	事業所の職員が、障害者雇用を行っている企業での「就業体験」などを通じて、就労支援スキルの向上や就労に向けた意識付けを行います。 <振り返り> 企業・団体の協力のもと市内事業所職員を対象に実施しました(毎年6月～7月)。	参加人数(累計) 90人	平成29年度参加人数(累計) :173人、 協力企業数(累計) :70社	○	参加人数(累計) 380人	



とりくみ 5-2 福祉的就労

げんじょう とりくみ ほうこうせい
現状と取組の方向性

企業等での就労が困難な方など、地域の障害者施設等に通り、そこでの「福祉的就労」に従事する方の収入（工賃）を向上させることも、障害のある方の自立を支えるうえで重要です。

そこで、「障害者優先調達推進法」に基づき、行政機関等が障害者施設等からの優先的な調達に努めるとともに、引き続き、企業等からの受注促進や自主製品の販路拡大に取り組めます。また、施設情報の集約や受注体制の構築など、福祉的就労を充実させていくための仕組みづくりを進めます。

し さく
施 策

さぎょう じゅうじつ こうちんこうじょう
作業の充実と工賃向上

さぎょうとう じゅちゅうそくしんおよ じしゅせいひん はんろかくだい
▶ 企業等からの受注促進及び自主製品の販路拡大

…市内障害者施設等における企業等からの受注促進及び自主製品の販路拡大などを通じて、作業を充実させるとともに、工賃向上を目指します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
しょうがいしゃ よこはま障害者 きょうどうじゅちゅうそうごう 共同受注総合 せんたー うんえい センターの運営	しない しょうがいしゃしせつとう じょうほう しゅうやく 市内の障害者施設等の情報を集約する とともに、さぎょうとう さぎょうじゅちゅう 企業等からの作業受注におけ まどぐちおよ こーでいねーとどう おこな る窓口及びコーディネート等を行います。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど せんたー かいせつ 平成27年度にセンターを開設しました。 せんたー しないしょうがいしゃしせつとう とうろく センターでは、市内障害者施設等の登録を すす さぎょうないよう じょうほう しゅうやく 進め、作業内容などの情報を集約し うえ ぱーじ しゅうち こうちんこう WEBページで周知しました。また、工賃向 じょう うえ せいぎょうほうもん ばんふれつと かい 上のため、企業訪問やレポートの改 てい けんしゅう ぎじゅつてきしどう おこな 訂、研修や技術的指導を行いました。な お こうちんそうがく そうか かめいしせつ お、工賃総額は増加したものの、加盟施設 およ りようしゃ そう へいきんこうちん もくひょう 及び利用者の増により平均工賃は目標 したまわ みこ を下回る見込みです。	かめいしせつ 加盟施設におけ る「月額平均 工賃」が10 %以上 上昇	へいせい ねんど 平成29年度 かめいしせつ 加盟施設におけ る「月額平均 工賃」の維持 (見込み)	△	かめいしせつ 加盟施設におけ る「月額平均 工賃」が10 %以上 上昇	

しょうがいしゃゆうせんちようたつすいしんほう もと はっちゅうそくしん
▶ 障害者優先調達推進法に基づく発注促進

ほुरりつ もとほんし ちようたつほうしん まいねんどさくてい ちようない しゅうちおよ けいはつ とく
…法律に基づき、本市の調達方針を毎年度策定し、庁内への周知及び啓発に取り組む
こと、で、しょうがいしゃしせつとう はっちゅう そくしん
ことで、障害者施設等への発注を促進します。また、さらなる推進のための仕組みづく
りを進めます。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひようか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ゆうせんちようたつすいしん 優先調達推進のた め、ちようない けいはつ の庁内への啓発	ちようないらん ちようないほう かつよう ゆうせん 庁内LANや庁内報などを活用し、優先 ちようたつ ぐきょくとう すぐ はっちゅうじれい 調達における区局等の優れた発注事例 ひろ しゅうち けいはつ おこな について広く周知・啓発を行います。 ふ かえ <振り返り> まいねんど ゆうせんちようたつほうしん さくてい すぐ 毎年度、優先調達方針を策定し、優れた はっちゅうじれい はーとーおーだーつうしん 発注事例を「ハートオーダー通信」として ちようないらん けいさい へいせい 庁内LANに掲載するとともに(平成27～ ねんど るいけい ごうはっこう ちようないかいぎとう 29年度累計14号発行)、庁内会議等で じれい せつめい はっちゅう そくしん 事例を説明し、発注を促進しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
たいしようにじぎょうしょ かくだ 対象事業所の拡大 む けんとう に向けた検討	とくれいこがいしゃ じゅうどしょうがいしゃたすうこようじ 特例子会社、重度障害者多数雇用事 ぎょうしよおよ ざいたくしゅうぎょうしょうがいしゃとう ほुरりつ 業所及び在宅就業障害者等、法律 たいしよはんい きぎょうとう たいしよかく の対象範囲である企業等への対象拡 だい む けんとう おこな 大に向けて検討を行います。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど けんとう おこな ねんど 平成28年度から検討を行い、29年度に じゅうどしょうがいしゃたすうこようじぎょうしよおよ ざいたく 重度障害者多数雇用事業所及び在宅 しゅうぎょうしえんだんたい よこはまし しよつ 就業支援団体、横浜市ふれあいシヨツ ぶ たいしよ ぶく よこはまししょうがいしゃしえん プを対象に含めた「横浜市障害者支援 しせつとう じゆん もの にんてい 施設等に準ずる者の認定にかかる要 こう さくてい じぎょうしよ にんてい 綱」を策定し、10事業所を認定しまし た。	かだい けんしやう 課題の検証 ふ を踏まえた けんとう 検討	じっし 実施	○	すいしん 推進	

しゃかいさんか きかい かくほ
▶ 社会参加する機会の確保

きぎょう はたら しせつ につちうかよ こんなん ざいたく かつ しゃかいさんか きかい
…企業で働くことや、施設に日中通うことが困難な在宅の方でも、社会参加する機会
かくほ しゅく けんとう
を確保できるような仕組みを検討します。

とりくみ にっちゅうかつどう
取組5-3 日中活動

げんじょう とりくみ ほうこうせい
現状と取組の方向性

しょうがいしゃ ひび せいかつ じゅうじつ しょうがいしゃほんにん きぼう ひと じょうたい あ
障害者が日々の生活を充実したものにすうえで、障害者本人の希望やその人の状態に合
にっちゅうかつどうばしょ かくじゅう もと
った日中活動場所の拡充が求められています。

しょうがいしゃほんにん にっちゅうかつどうばしょ せんたく かくじぎょうしょ
そこで、障害者本人が、日中活動場所を選択できるようにするため、各事業所が、それぞ
とくちょう い うんえい しく けんとう
れの特徴を生かした運営ができるような仕組みを検討します。

し さく
施策

にっちゅうかつどうばしょ かくじゅう
日中活動場所の拡充

にっちゅうかつどうばしょ やくわり めいかくかおよ せっちそくしん
▶日中活動場所の役割の明確化及び設置促進

げんざい にっちゅうかつどう かか さまざま しゃかいしげん やくわり いちづ めいかく しょうがいしゃ
…現在の日中活動に関わる、様々な社会資源の役割や位置付けを明確にし、障害者
ほんにん きぼう かつどうばしょ せんたく ほうほう いりょうてきけ あとうせんもんてき しえん ひつよう かた
本人が希望する活動場所を選択できる方法や医療的ケア等専門的な支援が必要な方へ
しえんほうほう けんとう
の支援方法について、検討します。

あわ とくべつしえんがっこう そつぎょうせいとう い さき にっちゅうかつどうばしょ せっち そくしん
併せて、特別支援学校の卒業生等の行き先となる日中活動場所の設置を促進します。

せいかつかいご
●生活介護

にっちゅう しょくじ にゅうよく はい とう かいご にちじょうせいかつじょう しえん せいさんかつどう きかいとう ていきょう
日中、食事や入浴・排せつ等の介護や日常生活上の支援、生産活動の機会等を提供します。

じりつくんれん きのうくんれん
●自立訓練（機能訓練）

りがくりょうほう さぎょうりょうほうとう しんたいてきり はびりてーしょん にちじょうせいかつじょう そうだんしえんとう おこな
理学療法や作業療法等の身体的リハビリテーション、日常生活上の相談支援等を行います。

じりつくんれん せいかつくんれん
●自立訓練（生活訓練）

しょくじ かじとう にちじょうせいかつのうりよく こうじょう しえん にちじょうせいかつじょう そうだんえんじょう おこな
食事や家事等の日常生活能力を向上するための支援、日常生活上の相談援助等を行いま
ます。

しゅうろうういこうしえんじぎょう
●就労移行支援事業

いっばんしゅうろうとう いこう む じぎょうしょない きぎょう さぎょう じっしゅう てきせい しょくばさが
一般就労等への移行に向けて、事業所内や企業における作業や実習、適正にあった職場探
しゅうろうご しょくばていちゃく しえんとう おこな
し、就労後の職場定着のための支援等を行います。

しゅうろうけいぞくしえんじぎょう えーがた
●就労継続支援事業（A型）

つうしょ こようけいやく もと しゅうろう きかい ていきょう いっばんしゅうろう む しえん
通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供するとともに、一般就労に向けた支援を
いっていき かんおこな
一定期間行います。

しゅうろうけいぞくしえんじぎょう びーがた
●就労継続支援事業（B型）

つうしょ しょうろう せいさんかつどう きかい ていきょう いっぱんしょうろう む しえん おこな
通所により、就労や生産活動の機会を提供するとともに、一般就労に向けた支援を行います。

よこはましちいきかつどうしえんせんたーじぎょう しょうがいしゃちいきさぎょうしょがた せいしんしょうがいしゃちいきさぎょうしょがた
●横浜市地域活動支援センター事業（障害者地域作業所型・精神障害者地域作業所型）

いか ちいきかつどうしえんせんたーさぎょうしょがた
(以下「地域活動支援センター作業所型」といいます。)

そうさくてきかつどう せいさんかつどう きかい ていきょう しゃかい こうりゅうそくしんどう かつどう じっし
創作的活動や生産活動の機会を提供し、社会との交流促進等の活動を実施します。

よこはましちいきかつどうしえんせんたーじぎょう ちゅうとしょうがいしゃちいきかつどうせんたーがた
●横浜市地域活動支援センター事業（中途障害者地域活動センター型）

いか ちゅうとしょうがいしゃちいきかつどうせんたー
(以下「中途障害者地域活動センター」といいます。)

のうけつかんしつかん こういしょう しょうがい ひと たい せいかつくねん ちいき こうりゅう おこな
脳血管疾患の後遺症などで障害のある人に対して、生活訓練や地域との交流などを行いな

がら、自立した生活や社会参加への支援を実施します。

福 [見込み]

	へいせい ねんど 平成27年度		へいせい ねんど 平成28年度		へいせい ねんど 平成29年度		へいせい ねんど 平成30年度		へいせい ねんど 平成31年度		へいせい ねんど 平成32年度	
せいかつかいご 生活介護	7,150	人分	7,759	人分	8,420	人分	7,783	人分	8,080	人分	8,417	人分
	実績:6,956	人分	実績:7,147	人分	7,306 (実績見込み)	人分						
	125,140	人日	135,795	人日	147,357	人日	127,637	人日	131,598	人日	136,283	人日
	実績:116,606	人日	実績:118,489	人日	125,438 (実績見込み)	人日						
じりつくねん 自立訓練 (機能訓練)	26	人分	26	人分	26	人分	30	人分	30	人分	30	人分
	実績:29	人分	実績:35	人分	35 (実績見込み)	人分						
	422	人日	422	人日	422	人日	511	人日	511	人日	511	人日
	実績:497	人日	実績:603	人日	596 (実績見込み)	人日						

福 【見込み】

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
じりつくんれん 自立訓練 (せいかつくんれん 生活訓練)	191人分	193人分	194人分	207人分	222人分	233人分
	実績: 169人分	実績: 192人分	208人分 (実績見込み)			
	2,801人日	2,829人日	2,857人日	3,402人日	3,638人日	3,874人日
	実績: 2,784人日	実績: 3,015人日	3,364人日 (実績見込み)			
しゅうろういこう 就労移行 しえんじぎょう 支援事業	657人分	807人分	898人分	1,376人分	1,628人分	1,949人分
	実績: 830人分	実績: 950人分	1,036人分 (実績見込み)			
	10,911人日	13,683人日	15,252人日	24,241人日	29,130人日	35,486人日
	実績: 13,988人日	実績: 16,116人日	18,176人日 (実績見込み)			
しゅうろうけいぞく 就労継続 しえんじぎょう 支援事業 (A型)	670人分	891人分	1,141人分	698人分	750人分	812人分
	実績: 563人分	実績: 593人分	664人分 (実績見込み)			
	13,422人日	17,851人日	22,849人日	13,994人日	15,031人日	16,255人日
	実績: 11,294人日	実績: 11,886人日	13,259人日 (実績見込み)			
しゅうろうけいぞく 就労継続 しえんじぎょう 支援事業 (B型)	2,964人分	3,507人分	4,150人分	4,248人分	4,855人分	5,551人分
	実績: 2,846人分	実績: 3,250人分	3,570人分 (実績見込み)			
	53,365人日	61,501人日	72,747人日	72,506人日	82,283人日	93,555人日
	実績: 49,612人日	実績: 55,979人日	63,011人日 (実績見込み)			

福【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ちいきかつどうし 地域活動支 援センター さぎょうしょがた 作業所型 (※)	189か所	185か所	181か所	154か所	154か所	154か所
	実績: 170か所	実績: 158か所	158 (実績見込み)か所			
	3,892人	3,800人	3,707人	3,411人	3,411人	3,411人
	実績: 3,755人	実績: 3,462人	2,709 (実績見込み)人			
ちゅうとしょうがい 中途障害 者ちいきかつどう 者地域活動 センター	18か所	18か所	18か所	18か所	18か所	18か所
	実績: 18か所	実績: 18か所	18 (実績見込み)か所			
	529人	529人	529人	529人	529人	529人
	実績: 527人	実績: 531人	529 (実績見込み)人			

※ ちいきかつどうしえんせんたーさぎょうしょがた ひつようすう かくほ
地域活動支援センター作業所型については、必要数を確保していきます。

※ この表における単位の考え方は次のとおりです。

・「人分」「回」…月間の利用人数・回数

・「人日」…「月間の利用人数」×「一人一か月あたりの平均利用日数」

とりくみ いどうしえん
取組5-4 移動支援

げんじょう とりくみ ほうこうせい
現状と取組の方向性

いどうしえんしさくたいけい さいこうちくどう しょうがいじ しゃ いどう ささ せいど かくじゅう
移動支援施策体系の再構築等により、障害児・者の移動を支える制度を拡充してきましたが、
それらの制度をさらに有効に利用できるような取組が必要です。

そこで、本人の希望に沿った移動支援に関する情報を整理して提供できる体制を充実させ
るとともに、引き続きガイドヘルパー等の担い手の確保に取り組み、制度を円滑に利用でき
るようにします。

また、施設への送迎等を一層効果的に進めるための仕組みを検討します。



いどうしえん じゅうじつ しゃかいさんか そくしん
移動支援の充実による社会参加の促進

そうごうてき いどうしえんさく じっし えんかつ りょう しえん
▶総合的な移動支援策の実施と円滑な利用の支援

がいどへるぶ がいどぼらんていあ いどうじ つ そ しえん ふくしとくべつじょうしゃ
…ガイドヘルプやガイドボランティアなど移動時の付き添いの支援、福祉特別乗車
けん たくしーりょうけん けいざいてき ふたん けいげんさく しゃりょう ばりあふりーか しえん
券・タクシー利用券など経済的な負担の軽減策、車両のバリアフリー化の支援など、
そうごうてき いどうしえんさく じっし しゃかいさんか そくしん ほか
総合的に移動支援策を実施し、社会参加の促進を図ります。

また、これらを含めた移動支援の仕組みについて、一人ひとりに合った適切な利用が
えんかつ しえん
円滑にできるよう支援します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
いどうじょうほうせんたー 移動情報センター うんえいどうじぎょう すいしん 運営等事業の推進 ㊦	いどうしえん かん じょうほう しゅうやく ひとり 移動支援に関する情報を集約し、一人 ひとりにあった適切な情報を提供す ることや、移動支援を支える人材の発掘・ いこうせい おこな いどうじょうほうせんたー ぜんく 育成を行う移動情報センターを全区で かいせつ しな いちいき いどうしえん 開設し、市内のどの地域でも移動支援の しく ころかてき りよう 仕組みを効果的に利用できるようにしま す。 <ふ かえ 振り返り> いどうじょうほうせんたー まどぐち へいせい ねんど 移動情報センターの窓口を平成28年度 まできに15区に設置し、運営を行いました。 へいせい ねんど あら く かいせつ 平成29年度に新たに3区で開設すること で、全区で展開する予定です。	そうだんけんすう 相談件数 2,500件	へいせい ねんど 平成29年度 そうだんけんすう 相談件数 2,500件 (見込み)	○	そうだんけんすう 相談件数 3,600件	
がいどへるばーとう ガイドヘルパー等 けんしゅうじゅこうりょうじよせい 研修受講料助成 ㊦ さいけい 再掲	がいどへるばーとう しかくしゅとく ガイドヘルパー等の資格取得のための けんしゅうじゅこうりょう いちぶ じよせい じんざいかくほ 研修受講料の一部を助成し、人材確保 を図ります。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど じよせいにんすう にん 平成28年度助成人数：210人 そうじよせいがく えん 総助成額：3,759,000円 うちわけ ちてきが いどへるばー けん ぜんしん 内訳：知的ガイドヘルパー39件、全身 せいがいどへるばー けん どうこうえんごいっばんか 性ガイドヘルパー44件、同行援護一般課 てい けん こうどうえんご けん 程100件、行動援護31件	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 じよせいにんすう 助成人数 ：250人 (見込み)、 そうじよせいがく 総助成額 ：5,000,000 円 (見込み)	○	すいしん 推進	

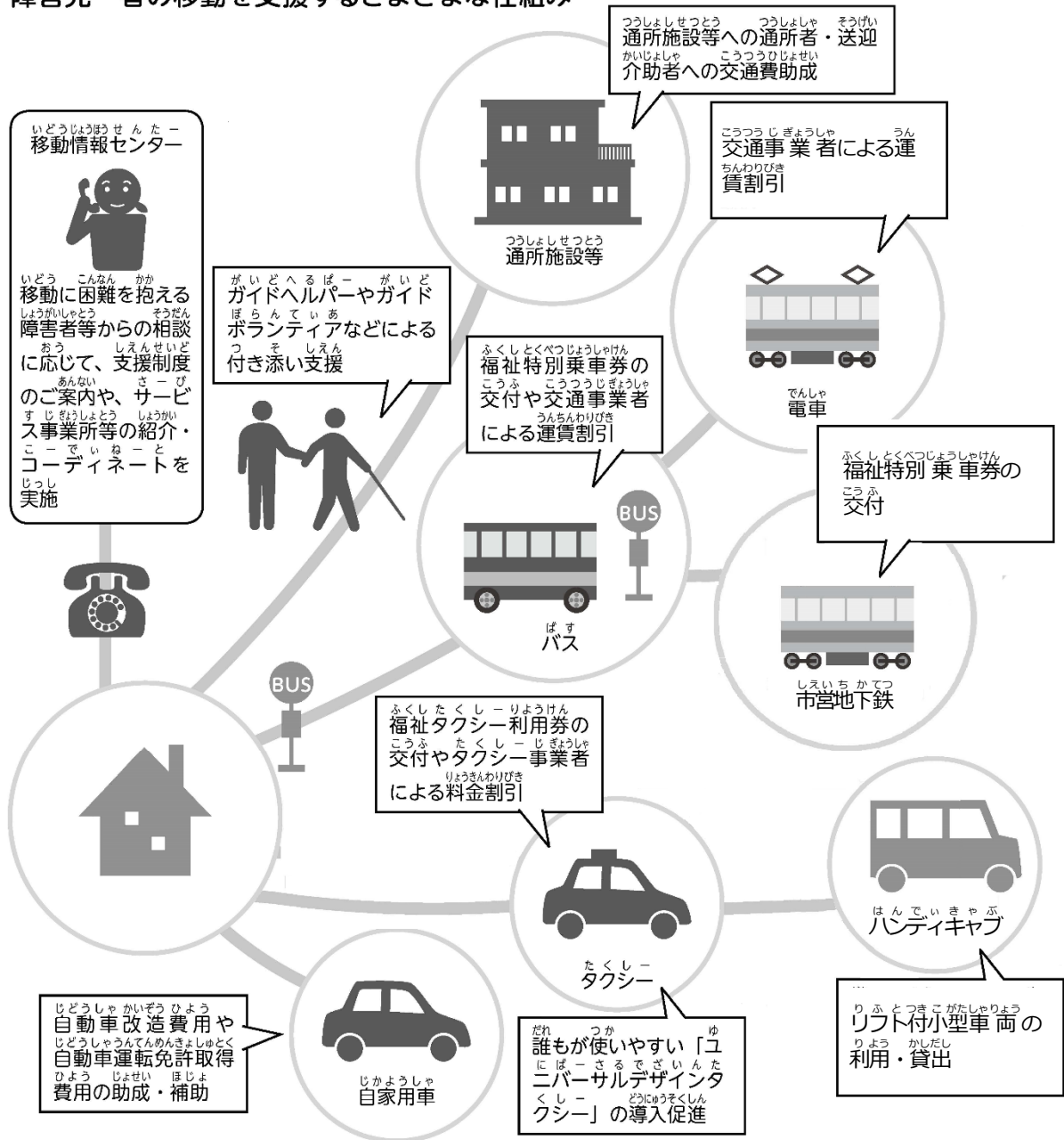
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
がいどへるばー ガイドヘルパー すきるあっぷけんしゅう スキルアップ研修 (あ) さいけい 再掲	より質の高いサービスが提供できるよ う、移動支援事業の従業者を対象に 研修を実施します。 <振り返り> 平成28年度参加人数(累計) ・サービス提供責任者向け研修：132 人(全4回) ・従業者向け研修：250人(全6回)	すいしん 推進	平成29年度 参加人数 (累計) ・サービス提 供責任者向 け研修：74 人 ・従業者 向け研修： 101人	○	すいしん 推進	
こうりつてき しゃりょうりょう 効率的な車両利用 の仕組みの検討 (あ)	通所等の社会参加が一層進められるよ う、乗合形式等による効率的な車両 利用の仕組みを検討します。 <振り返り> カーシェアリング(乗合送迎)の仕組みに ついて、検討委員会を設置し、平成25年 から平成27年にかけて検討を行い、報 告書を作成しました。また、エリアを限定 したモデル走行等も実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
なんびょうかんじゃがいしゅつしえん 難病患者外出支援 サービス事業	一般の交通機関を利用しての外に出 困難を伴う、車いす利用者等に福祉 車両によるサービスを提供します。 <振り返り> 平成27年度延利用回数:1,119回 平成28年度延利用回数:946回	すいしん 推進	平成29年度 のべりようかいすう 延利用回数 :850回 (見込み)	○	すいしん 推進	

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	目標
在宅重症患者 外出支援事業	<p>車いすによる移動が困難でストレッチャー対応車を使用せざるを得ない難病患者が、通院等の際、所定の患者等搬送用自動車を利用した場合に、その移送費の一部を助成します。</p> <p><振り返り> 平成27年度延利用回数：499回 平成28年度延利用回数：540回</p>	すいしん 推進	平成29年度の 延利用回数 :580回 (見込み)	○	すいしん 推進	
福祉有償運送事業	<p>移動に介助が必要な身体障害者等を対象に、登録されたNPO法人等により、自家用自動車を使用して有償で輸送するサービスを促進します。</p> <p><振り返り> 福祉有償運送を行うNPO法人等の登録等や福祉有償運送の適正な実施等について協議する、福祉有償移動サービス運営協議会を開催しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

【見込み】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
移動支援事業	668,820 時間分	688,978 時間分	709,744 時間分	724,125 時間分	745,849 時間分	768,224 時間分
（移動介護）	659,335 時間分	682,557 時間分	703,034 時間分 (実績見込み)			
通学通所支援	4,546 人分	4,819 人分	5,109 人分	5,898 人分	6,134 人分	6,379 人分
	5,105 人分	5,401 人分	5,671 人分 (実績見込み)			

しょうがいじ しゃ いどう しえん
障害児・者の移動を支援するさまざまな仕組み



とりくみ ぶんか すぽーつ れくりえーしょん
取組5-5 文化・スポーツ・レクリエーション

げんじょう とりくみ ほうこうせい
現状と取組の方向性

せいかつ じゅうじつ ぶんか すぽーつ れくりえーしょん かつどう じゅうじつ ひつよう
生活を充実させるためには、文化・スポーツ・レクリエーション活動の充実が必要です。こ
れまでも、さまざまな支援に取り組んできましたが、依然として、余暇活動を楽しむ場や機会の
すく じょうほう にゅうしゅ かだい
少なさや、それらの情報が入手しづらいといった課題があります。

かつどう おこな ばしょ ほっぴょう きかい じゅうじつ すす かつどうだんたい じょうほう
そこで、こうした活動を行う場所や発表の機会などの充実を進めながら、活動団体の情報
はっしん おお かた さんか かんきょう とどの
を発信することなどにより、多くの方が参加しやすい環境を整えます。

また、より多くの方々と接点を持つことにより、社会参加のきっかけや就労意欲の向上にも
つながるため、様々な余暇活動の場の充実を進めます。



ぶんか げいじゅつかつどう すいしん
文化・芸術活動の推進

げいじゅつ ふ あ きかい さくひんほっぴょう きかい かくほ
▶芸術に触れ合える機会と作品発表の機会の確保

さまざま しょうがいとくせい おう きかい ていきょう けんとう しょうがいしゃ み
…様々な障害特性に応じて、どのような機会の提供ができるかを検討し、障害者が「観
る、聴く、触れる、感じる、楽しむ」を通して、芸術に触れ合う機会の提供を検討します。

また、しょうがいしゃじしん いっそう じりつ げいじゅつかつどう かんきょう けんとう
障害者自身の一層の自立につなげていくため、芸術活動の環境づくりを検討
します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
さんかがたあーといべんと 参加型アートイベント の開催	しな い さまざま かいじょう かつよう さんかがた 市内の様々な会場を活用して、参加型 のアートイベントを検討・開催します。3 ねん いちどかいさい ばらとりえんなーれ 年に一度開催するパトリエナーレへ の基盤づくりとして、しょうがいしゃ の芸術活動の環境づくりを検討します。 げいじゅつかつどう かんきょう けんとう <振り返り> ふ かえ しょうがい かつ あーと かつどう しえん 障害のある方のアート活動を支援する じんざい いくせい もくてき ぶんかじ 人材を育成することを目的とし、文化事 ぎょう ぼらんてい あとう けんしゅうかいおよ かくしゅ 業ボランティア等の研修会及び各種 わーくしょっぷ じっし ワークショップを実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
よこはま ばらとりえ ヨコハマ・パトリエ んなーれ かいさい ンナーレの開催	しょうがいしゃ げいじゆつかつどう そくしん 障害者の芸術活動を促進することや、 しょうがいしゃ げいじゆつか きょうどう さくひん 障害者と芸術家の協働による作品 づく おこな しょうがいしゃじ 作りを行うことなどにより、障害者自 身 いっそう じりつ げん 身の一層の自立につなげていくため、現 だいあーとこくさいてん よこはま ばらと 代アート国際展である「ヨコハマ・パト りえんなーれ かいさい リエナーレ」を開催します。 ふ かえ <振り返り> よこはま ひゆーまん あんどてくのらんど ヨコハマ・ヒューマン & テクノランドに ばらとりえんなーれ よこ おいてパトリエナーレ2014 および横 はまらんでうーぶろじえくと けいぞく じつ 浜ランデヴープロジェクトで継続して実 し しょうがいしゃしせつ あーとかつどう 施している障害者施設とのアート活動 しょうかい について紹介しました。	かいさい 開催	かいさい 開催	○	かいさい 開催	
こうしゆ ずがこうさく 4校種 図画工作・ びじゆつ しょうさくひんてん 美術・書道作品展 とくべつしえんきょういくぶちん 特別支援教育部門 つたえたいぼくのおも いわたしのきもちへの かいさい 開催 さいけい 再掲	こうしゆ しょう ちゅう こう とくべつしえん よう 4校種（小・中・高・特別支援）の幼 じじどうせいと さくひん いちどう あつ しみんこう 児児童生徒の作品を一堂に集め、市民公 かい さくひんてん かいさい しょうがい 開の作品展を開催することで、障害の こ ぶんかかつどう かん ふきゅう けい ある子どもの文化活動に関する普及・啓 はつ はか 発を図ります。 ふ かえ <振り返り> こうしゆ しょう ちゅう こう とくべつしえん ようじ 4校種（小・中・高・特別支援）の幼児 じじどうせいと さくひん いちどう あつ しみんこうかい 児童生徒の作品を一堂に集め、市民公開 さくひんてん かいさい まいとし まんにん こ の作品展を開催し、毎年1万人を超える しみん らいじょう 市民が来場しています。また、へいせい ねんど えぬびーおーほうじん こうえん う てんじ 年度にはNPO法人の後援を受け、展示 ばねる あたら するパネルを新しくすることができまし た。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

こ ら む
コラム

よこはま ぱらとりえんなーれ
ヨコハマ・パラトリエンナーレについて (仮称)

oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo

oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo

しっぴつ いらいちゅう
執筆依頼 中

oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo
oo

しょうがいしゃ げいじゅつかつどう しえん ねっとわーく
▶障害者の芸術活動を支援するためのネットワークづくり

ぶんか げいじゅつかつどう と く しょうがいしゃ かぞくおよ しえんしゃ たい しえん すいしん
…文化・芸術活動に取り組む障害者やその家族及び支援者に対する支援を推進するた
め ネットわーく けんとう
めのネットワークづくりを検討します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
しょうがいしゃ げいじゅつかつ 障害者の芸術活 動支援ネットワ ークの構築	しょうがいしゃ びじゅつかつどう さき じんざい だん 障害者の美術活動を支える人材、団 たいとう かんけいきかん ねっとわーくか 体等の関係機関によるネットワーク化 を図り、芸術活動の情報収集、発 しん おこな きよてん せっち 信を行う拠点を設置します。 <振り返り> へいせい ねんど じぎょうか 平成29年度から事業化するため、予 さん はいぶん 算を配分しました。	こうちく 構築	こうちく 構築	○	すいしん 推進	

すぽーつかつどう すいしん
スポーツ活動の推進

おりんぴっく ぼらりんぴっく かいさい あ じょうほうはっしん しょうがいしゃすぽーつ すいしん
▶オリンピック・パラリンピックの開催に合わせた情報発信や障害者スポーツの推進

ねんおりんぴっく ぼらりんぴっくとうきょうたいかい む しょうがいしゃすぽーつ きうん
…2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者スポーツの機運の
たか あ しょうがいしゃすぽーつ とりくみ かん じょうほうしゅうしゅう はっしん しょうがいしゃ
高まりに合わせて、障害者スポーツの取組に関する情報収集・発信により、障害者
すぽーつ すいしん
スポーツを推進します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ぼらとらいあするん パラトライアソンの きょうか 強化	よこはまらぼーる ぼらとらいあするん 横浜ラポールにおいて、パラトライアソン きょうぎ ふきゅう きょうか む とりくみ すいしん 競技の普及・強化に向けた取組を推進し ます。 <振り返り> ぐりーんとらいあするん せかいとらいあするん グリーントライアソン、世界トライアソン シリーズ横浜大会、シーサイドトライアソ ん きょうりよく いぐじつとは ンに協力しています。また、イグジット んどらー じつぎけんしゅう よこはまらぼーる ぶ ンドラーの実技研修を横浜ラポールのブ ーる じっし ールで実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんがっこう 特別支援学校におけ るスポーツ選手育成 きょうかじぎょう 強化事業	おりんぴっく ぱらりんぴっく とうきょうたいかい オリンピック・パラリンピック東京大会開 さい けいき とくべつしえんがっこう おこな 催を契機として、特別支援学校で行う すぽーつ せかい めざし じどうせいと しえん スポーツで世界を目指す児童生徒を支援する ことにより、しょうがい こどもたちの じりつ 自立と しゃかいさんか 社会参加につなげます。 ふ かえ <振り返り> とくべつしえんがっこう じどうせいと たつきゅう すいえい 特別支援学校の児童生徒が卓球、水泳、 りくじょうきょうぎ せかいてき たいかい しゅつじょう 陸上競技で世界的な大会に出場する にあたり、しょうれいきん こうふ しょうがい 奨励金を交付したため、しょうがい しゃすぽーつ ふきゅうけいはつ ごーるぼーる 者スポーツの普及啓発のため、ゴールボール ぼっ ちゃ びひん とくべつしえんがっこう せいび やボッチャの備品を特別支援学校に整備し ました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			

れくりえーしょんかつどう すいしん
レクリエーション活動の推進

ちいき れくりえーしょんかつどう ふきゅう けいはつ
▶地域におけるレクリエーション活動の普及・啓発

みぢか ちいき すぽーつしせつ かつよう れくりえーしょんかつどう すいしん ちいき
…身近な地域にあるスポーツ施設を活用したレクリエーション活動の推進や、地域
じんざい いくせい くわ たとし せんしんてき とりくみどう じょうほうしゅうしゅう ふきゅう けいはつ すいしん
人材の育成に加え、他都市における先進的な取組等の情報収集と普及・啓発を推進し
ます。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
しょうがいしゃ すぽーつ 障害者スポーツの けいはつ 啓発	たとし とりくみ じょうほうしゅうしゅう 他都市における取組の情報収集と、 くたいてき けいはつほうほう けんどう おこな 具体的な啓発方法の検討を行います。 ふ かえ <振り返り> たとしとりくみ じょうほうしゅうしゅう すす 他都市取組の情報収集を進めると どうじ しょうがいしゃ すぽーつたいけんかい し 同時に、障害者スポーツ体験会を市 ないこうりつがっこう ちゅうしん かいさい 内公立学校を中心に開催しました。 よこはま まらそん きふきん かつよう また、横浜マラソンの寄付金を活用し、 りおばらりんびっく しゅつじょうせんしゅ リオパラリンピック出場選手への助 せいきん こうふ りおばらりんびっく 成金の交付や、リオパラリンピックの さつえい おこな しゃしんか しゃしんてん かいさい 撮影を行った写真家の写真展を開催 おりんぴっく ぱらりんぴっく とう し、オリンピック・パラリンピック東 きょうたいかい む けいはつかつどう とく 京大会に向けた啓発活動にも取り組 みました。	けいはつほうほう 啓発方法の けんどう 検討	じっし 実施	○	すいしん 推進	

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
身近な地域における障害者スポーツの推進	<p>身近な地域にあるスポーツセンター等を活用して、障害者スポーツにいつでも取り組むことができるよう、地域人材の育成を進め、障害者スポーツ活動の推進を図ります。</p> <p><振り返り></p> <p>中途障害者地域活動センター、体育協会等と連携しネットワークを構築してきた地域の活動を、引き続き支援しています。</p> <p>さらに、磯子区と港南区で新たなネットワークの構築に取り組んでいます。また、障害者スポーツの周知活動、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等の実施を通して、支援者・指導者の人材育成を進めています。</p>	推進	実施	○	推進	
障害者スポーツ文化センターの整備及び運営※	<p>スポーツ・文化活動の場や機会を充実させるため、「ラポール上大岡(仮称)」を整備します。新横浜の横浜ラポールと連携して一人ひとりの多様なニーズに応じた支援を行います。</p>	—	—		「ラポール上大岡(仮称)」運営	

※ 本市では平成4年に障害者スポーツ・文化活動支援の中核施設として、新横浜に横浜ラポールを設置しました。横浜ラポールでは開館以来、リハビリやスポーツ・文化教室などを実施するほか、スタッフが地域に出向き、身近な場所での活動支援にも取り組んできました。このような取組もあり、現在では年間40万人以上の方にご利用いただいています。

健康づくり環境の整備 <<再掲>>

…障害特性を理解した横浜ラポールのスタッフ等の人的資源や専用設備を有する関連施設を生かし、障害者に必要な体力づくりやリハビリテーションが地域で行えるよう、地域の人材育成も含めた環境の整備を進めます。



め も ら ん
メモ欄